

「JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権大会」 報告



広島県サッカー協会ユース審判員 岡崎啓太郎

【日程】

2023年12月25日（月）～28（木）

【場所】

鹿児島ふれあいスポーツランド、鹿児島県立鴨池補助競技場、白波スタジアム、
ホテルタイセイアネックス（宿舎）

【活動内容】

- ①大会前の準備として3回のオンライン事前研修会（11/15,11/29,12/18）
- ②大会の審判活動（12/26～28）全147試合（本大会87試合・FM16試・MC44試合）

【内容】

1, オンライン事前研修会

<p>① 11/15（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務連絡 ・大会までの準備について ・次回研修までの宿題 	<p>② 11/29（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の宿題の確認 ・グループに分かれてディスカッション 	<p>③ 12/18（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー表/公式記録について ・大会についての再確認 ・グループに分かれてディスカッション
---	---	--

2, 本研修

12/25（月）

◆夜 研修

・リスペクトワークショップに参加し感じた、選手と審判員とのリスペクトやグリーンカードに対する意識の違いの共有

- ・U-12年代のプレーの特徴とそれに合わせた目指すべきレフェリングについて
- ・審判チームと担当するピッチの発表

◇ 試合

①12/26 (火) 第1節 グループH (ピッチ7)

センアーノ神戸ジュニア (兵庫) 0-1横浜F・マリノスプライマリー (神奈川)

☆良かった点

- ・回り込んで監視するポジショニング
出し手と受け手を同一視野で監視できた
- ・ファウルジャッジ
安定したファウルジャッジとファウルが起きた後の適切な対応や、注意を褒めて頂いた

★改善点

- ・争点との距離
出し手と受け手を同一視野で監視しようとするあまり、争点からの距離が遠くなってしまうことがあった
→首振りや体の向きを工夫する
- ・シグナル
スローインの際のシグナルが低く、バタつきがあると指摘を受けた

◆夜 研修

- ・JFA コーチによる技術に関する講義
- ・大会1日目の振り返り

②12/26 (水) 第3節 グループJ (ピッチ1)

リベロ弘前SC U-12 (青森) 2-0FCルーザ福岡 (福岡)

☆良かった点

- ・運動量
試合終盤でも衰えないスプリント
- ・回り込んで監視するポジショニング
出し手と受け手を同一視野で監視できた

★改善点

- ・走力に頼るポジショニング
遅れた時にスプリントで補うことが多々あると指摘を受けた
→動き出しや予測の精度を上げて遅れないようにする
- ・注意をする際の振る舞い
選手に注意をする際、選手を呼ぶジェスチャーはしていたが自分の方から寄って行ってしまった

③12/26 (水) フレンドリーマッチ (ピッチ1)

サンフレッチェ広島F.Cジュニア (広島) 1-2FCルーザ福岡 (福岡)

☆良かった点

- ・運動量
試合終盤でも衰えないスプリント
- ・ファウルジャッジ

安定したファウルジャッジ

★改善点

- ・争点との距離間

近づくことを意識するあまり、ボールに巻き込まれることも多くあった

◆夜 研修

- ・大会2日目の振り返り
- ・大会2日間を振り返ってのグループディスカッション
- ・29日まで残る審判員の発表

④・⑤12/27 (木) マクドナルドカップ

MIRUMAE・FC・U-12(岩手)0-0津田フットボールクラブ (三重) PK 2-3

大社少年サッカークラブ (島根) 1-2 サガン鳥栖 U-12 (佐賀)

2日間で見つかった課題を改善させるために積極的にチャレンジすることができた

【まとめ】

全国から32名のユース審判員が派遣され、試合を運営しました。自分としては初めての全国の舞台でのレフェリングは緊張しましたが、広島県や中国地方での研修会で教わったことを十分に発揮することができたと感じています。ラウンド16以上の割り当てを頂けなかったことは悔しい気持ちもありますが、12/27 (木) のマクドナルドカップでは、今大会での課題にチャレンジし良い感覚を得て帰って来れたことは良かったと感じています。また、今大会で全国のユース審判員とピッチ内外で交流を深めることができ、自分の審判員としての現在地を知れたことは良かったと感じています。

今回、JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権大会に派遣して頂きありがとうございました。多くのインストラクターの方々のアドバイスを受け、チャレンジを繰り返すことにより学得多い大会となりました。大会に携わっていただいたJFA・地域インストラクター、ユース審判員、中国FA、広島FAの皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。



2023年度「U-18審判員研修会(JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権大会)」報告 ～今大会テーマ「勇気は君の武器になる」～

鳥取県サッカー協会U-18審判員
馬野夢太

○日程・・・2023年12月25日(月)～28日(木)

○場所・・・鹿児島ふれあいスポーツランド、鹿児島県立鴨池補助競技場、白波スタジアム

○研修内容、活動

12月25日(月)

- ・全日本U-12サッカー選手権大会 開会式
- ・リスペクトワークショップ参加
- ・全体研修、割り当て確認、審判員・INS挨拶

12月26日(火)

【予選1次ラウンド】第2戦 グループD ピッチNo.1

会津サントスFC(福島) 0 - 4 ヴェルフェ矢板(栃木)

- ・良い点
全体を通して落ち着いた試合ができた。選手とのコミュニケーションがとれた。
- ・改善点
選手と並走してしまう時があるため角度を変えてみる。シグナルが雑になってしまう時がある。
ブッキングの前にもう少し周りを確認する。個人的にもっと走れると感じた。

12月27日(水)

【予選1次ラウンド】第3戦 グループC ピッチNo.7

エクセレントフィートFC(埼玉) 1 - 1 FCリバーズ(愛媛)

- ・良い点
1日目の改善点をふまえた試合ができた。シグナルを丁寧に出せた。補助審との連携がうまくとれた。
- ・改善点
ボールの争点やプレイヤーに近づきすぎてしまうことがあった。
PAの監視するポジションを考える。

12月27日(水)

【予選1次ラウンド】 第3戦 グループK ピッチNo. 7

ソレッソ熊本(熊本) 6 - 0 FCガウーショ(静岡県)

・良い点

2日間で一番良い試合ができたと思った。ポジショニング、判定、シグナルなど改善点として上がっていたことをすべて修正して試合を終えることができた。INSの方からも好評が多くもらえた。

・改善点

更に見栄えをよくするために、立ち姿や走り方までもこだわるとよい。

○まとめ

今回の大会で学んだことは沢山あります。今大会のテーマである「勇気は君の武器になる」を意識して自分の持っている力を最大限発揮できたと同時に様々なことをINSの皆さんから教えて頂きました。

そして全国から集まった31人の仲間ができました。選手が最後まで戦い抜く姿を見て感動した場面もありました。この大会を支えて下さった方やサポートしてくれた人達への感謝を忘れず今後の審判活動に今回の経験を活かしていきたいと思います。

「JFA 第 47 回全日本 U-12 サッカー選手権大会」報告

島根県サッカー協会ユース審判員

佐野生昂

- 日 程 2023 年 12 月 25 日(月)～28 日(木)
- 会 場 鹿児島ふれあいスポーツランド
- 担 当 試 合 1. 12 月 26 日(火) グループ F Kick off 10:30
- 札幌ジュニア FC(北海道) 0 — 2 アイリス FC 住吉(大阪)
- 良かった点
- ①運動量
争点に近いポジションでの監視
 - ②ロングスプリント
ロングボールの対応
 - ③正しいイエローカードの適用
瞬時に状況を判断
- △改善点
- ①サイドの 1 対 1 と PA 内の両方が監視できるポジショニング
ボールに近づき過ぎると次のプレーに遅れる
 - ②争点が見えるポジションの取り直し
細かいステップと 2、3m のスプリント
 - ③競技者の邪魔にならないポジション取り
空いているスペースは競技者が使いたいところ
2. 12 月 27 日(水) グループ E Kick off 10:30
- サガン鳥栖(佐賀) 0 — 1 浦和レッズ(埼玉 2)
- 良かった点
- ①ロングスプリント
ロングボールの対応
 - ②切り替え
攻守が変わったときの切り替えとポジション取り
 - ③正しいイエローカードの適用
瞬時に状況を判断
- △改善点
- ①ボールとオフサイドの両方の監視
近づき過ぎると視野が狭くなる
 - ②首を振って次のプレーの情報を集める
予測ができて次のプレーに遅れない
 - ③コーナーキック時のボールと競り合いの両方の監視
遠すぎず、両方が監視できるポジション取り
 - ④競技者の邪魔にならないポジション取り
空いているスペースは競技者が使いたいところ

ま と め

今大会は主審と補助審判のみの1人制審判の大会で、全国の32名のユース審判員が審判団となり、競技を運営しました。

一番難しかったことは球際とオフサイドを同時に監視することです。オフサイドはサッカーの一番の魅力である得点に繋がりやすいため、重要な事象です。しかし、けがを負う人を生まないようにすることも審判員の重要な役割なため、球際の監視も欠かせません。近づきすぎると見えないものが多くなるし、遠すぎると説得力が無くなるため、ポジション取りにはかなり苦戦しました。

全国のユース審判員と意見交換をしたり、インストラクターの方々からたくさんのことを教えてもらい、新しい見方や考え方を感じることができました。また、空き時間にはスプリント時のフォームや、次のプレーを速くするためのステップのポイントなど、細かいことも指導して頂き、たくさん学びがあった大会になりました。

トーナメントで負けたチームの選手達は泣き崩れ、お互いのチームをたたえ合う。U-12の選手達からもたくさんの思いやりやリスペクトを感じることができました。

天候にも恵まれ、このような素晴らしい大会に参加し、全国の仲間達と切磋琢磨して大会を作り上げることができ、とても幸せでした。そして、この大会で見つかったストロングポイントや課題を今後に活かし、成長した姿でまた全国の仲間達にお会いしたいと思います。

大会参加にあたり携わって頂いたJFA、地域のインストラクター、ユース審判員、中国FA、島根FAの皆さんに感謝致します。本当にありがとうございました。



U12大会を振り返って

初日、16時集合でホテルに入りました。

その後、すぐにMTとなり、今回の説明となりました。まず、言われたのが「今回の大会は、皆さんの技術や知識を向上する研修ではありません。皆さんの力を出し切って、この大会を成功させてください。」と言われました。研修ではないのだといきなり伝えられました。午前中3試合、午後3試合があり、一人で3試合を担当するスケジュールでした。ですが、私とペアのインストラクターが急に欠席となり、結局、1日4試合担当するハードなスケジュールになりました。担当審判が当該県にならないよう、また、インストラクターの割り当て変更も頼まれ、スタートからフル活動でした。その後、夕食をあわただしく取り、その後ユース審判員と合同のMTとなりました。スケジュールの説明、大会の説明等あり、21時30分までMTは続きました。翌朝は6時起床し、6時半から朝食、8時には出発というスケジュールでした。会場に着くと、会場準備、ボール等の確認などやることはいっぱいでした。ユース審判はそういった試合前の準備等はまったく理解しておらず、こちらがすべて伝えるという状況でした。なので、心に余裕をもって審判に臨むなどという感はなく、フィールドやボールなどに意識が行き、サポート審判と打ち合わせなどできるものではありませんでした。キックオフ時間に間に合うか冷や冷やしながらのゲーム前でした。審判の技量はそれぞれ全く違うと伝えられていました。地域の推薦を受けてきたからある程度はできると思っていたら、全く違うものでした。今回の大会でハーフタイム中の改善を言われました。非常に気を使いました。時間もありませんし、高校生年代なので、言葉を選ぶのも大変でした。落ち込ませて、後半に臨むなどさせることなど絶対にできません。試合後の振り返りも次のゲームまで15分もないので、ゆっくりとできることもありませんでした。次の試合の準備もあるので、インストラクター業務よりも審判の運営のほうに力を取られました。昼の時間がなく、ユース審判は昼食をとれない審判員もいました。インストラクターとして1試合ごとに審判員を成長させるように命題がありましたので、時間のなかで、どうすべきか悩みました。ユース審判の中には、素直にアドバイスを受け入れる審判員ばかりではありませんでした。心を開いてくれるには、かなり苦労しました。最終戦終了後にはすぐにホテル移動となるので、移動のバスの中での振り返りとなりました。ほかのユース審判もいる、JFAのインストラクターもいる状況で振り返りは、子供の自尊心にも気を使うので、非常に大変でした。ホテルに着くと忘れないうちにすぐにレポートを書きました。その後、夕食、MTと21時半までかかりました。ユース審判は報告書の書き方も知らないのこちらがチェックする状況でした。部屋に帰り、気づかないまま翌朝を迎える2日目でした。3日目は予選リーグとフレンドリーマッチ、16の決勝トーナメントでした。初日のパフォーマンスを見て、割り当てをこちらが決めます。確かに審判技量の高い子もいましたので、その子たちをトーナメントに割り当てました。この2日間でユース審判員もかなり成長を見ることができました。参加チームは、ベンチマナーも色々で苦労した審判員もいました。帰

りのバスの中で泣いていた審判員もいました。この日の夜の MT は審判員と合同で全体の振り返りとなりました。コメントの中には、そんなことに気づいていたのかという新たな気づきもありました。21時まで MT は続けました。最終日は、フレンドリーマッチと決勝トーナメント組と別れての活動になりました。地域インストラクターは全員フレンドリーマッチでの指導になります。最終日ということでユース審判員も疲労の色は隠せませんでした。昼過ぎに終了し、帰路につきました。

大会全体を通じて、非常にハードなスケジュールで、審判員へのアドバイスも十分にできませんでした。ですが、その中でも高校生は成長を見せてくれました。時間のない中で、どうやって審判員の成長を感じるかに関しては、とてもいい経験をさせてもらいました。ハーフタイムのアドバイスに関しても、普段は判定基準がぶれるのでしませんが、今回やってみていい経験になりました。

2級審判インストラクター

篠原隆二(岡山県所属)